

【ポスター発表】

ソーシャルワーカー養成に必要なハラスメントに関する理想の講義
—アンケート調査とインタビュー調査の“理想”に焦点化した予備的検討—

○ 山形大学 中澤 未美子 (009275)

坂野剛崇 (大阪経済大学・009863)、徳広 圭子 (岐阜聖徳学園大学短期学部・002070)

銭本 隆行 (日本医療大学・009139)

キーワード：ソーシャルワーカー養成・ハラスメント・授業

1. 研究目的

昨今、様々なハラスメントの問題が生じており、その解決に向けた活動が重要になっている。厚生労働省が提示しているソーシャルワーカー（以下、SWr※）養成のカリキュラム（社会理論と社会システム／社会学と社会システム）には「ハラスメント」の文言が明記されており、SWrには、それを担う役割が期待されている。SWrの活動について、中澤ら（2020）は、SWr養成の授業はハラスメントが十分に取上げられていない実情を明らかにし、坂野（2021）らも科目担当者らへのインタビュー結果から、教育の方法や内容に関して種々の課題があることを明らかにしている。このようにハラスメントを巡るSWrの活動については、期待されてはいるものの、教育が十分になされていない現状がある。ハラスメント問題に的確に活動するためには、SWr養成における取り上げた方の検討が必要である。そこで本研究では、SWrに必要なハラスメントに関する授業のあり方について具体的に検討する。

※本研究では社会福祉士と精神保健福祉士を指す。

2. 研究の視点および方法 データとしたのは次の2つである。

- ① 先行研究（「ソーシャルワーカー養成におけるハラスメントに関する教育の検討」）で一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟会員校（274校）に実施したアンケート（調査項目は、Ⅰ回答者の基本属性、Ⅱハラスメントの授業の実態、Ⅲハラスメントに関する理想の授業）の回答（67校）のうち、「Ⅲ」部分
 - ② ①の調査の回答者のうち面接調査に応諾した回答者のインタビューデータ（逐語）（坂野ら（2021）のデータに3名を加えた計11名のインタビュー）
- 分析は、①及び②のうち理想とする授業に関する部分の逐語データを分析ソフト(Nvivo)を用いて頻出語やコードを算出した。そして、それに基づいて授業案を作成した。

3. 倫理的配慮

研究協力者には、研究の目的、方法、データの取扱い、調査への協力は自由意志によるものであること、質問内容によって回答拒否しても不利益を被らないことなどについて文書で（interview では口頭でも）説明を行い、アンケートは返送によって承諾の意志とみ

なすことを明記した。インタビューは同意書に自署する方法で了承を得た。なお、本研究は山形大学地域教育文化学部倫理審査委員会の承認を得ている(承認番号:R01-3)。また、共同研究者の許諾を得ている。

4. 研究結果

頻出語を授業案の項目に組み込みながら作成したハラスメントをテーマとした授業の理想の案は表のとおりである。これらより、教員は、十分な時間をかけ、ハラスメントの内容や実情について、具体例をもとに学生が具体的なイメージを持てるような授業を望んでいるといえる。また、学生が将来実務で遭遇した場合適切に活動できるよう、ハラスメントの判断、発生メカニズムといった適切なアセスメントができた上で、的確な対応ができるよう、事例検討やワークによる実践的な内容とすることも望んでいることがわかった。

時間・形態	1 コマ (60 分～90 分)・講義中心・配慮 (ハラスメントの被害や加害体験を持つ学生の参加を想定し、シラバスに明記。人権、ジェンダーなどを学習した後に扱う。)
副教材	新聞やネットなどの実例報道、ドキュメンタリーなどの動画、書籍・映画の紹介、当事者の話や教員自身の直接的、間接的な経験を話し、それをどう考えるかを学生に投げかける
目標	ハラスメントが起こる原因、解決方法、防止について理解する。パワハラ・セクハラ・アカハラを中心とし、発生構造や要因、遭ったときの対応方法、定義を理解する。
内容	様々なハラスメント、定義や発生構造、社会運動や法整備、事例提供、ワーク

5. 考察

理想の授業は、ハラスメント問題を巡って的確に実践できるようになるための具体的な内容を盛り込んだものであることがわかった。ただし、頻出語には、被害者や加害者の個別の事情や心性よりも、SWr が日頃より依拠している高齢化やジェンダー、社会構造などの単語が多くみられた。アンケート調査の実態を考慮すると、授業内容は、担当教員の専門性によって差異が小さくないところがある。今後は、担当教員のハラスメントに関する知識等の平準化が必要であるといえる。また本研究では、SWr 養成課程のハラスメントに関する授業をエビデンスに基づき作成した点で一定の成果を得たが、「理想」に関する記述は潤沢といい難く、さらに調査を重ねる必要がある。また、今後は他の養成科目(演習や実習)等とハラスメントとの接点の検討や、全国的なシラバスの収集・分析、諸外国の SWr 養成テキストの参照、心理士等の関連職種 of 教育状況の確認を行い再検討していきたい。

文献等

坂野剛崇・中澤未美子(2021)「ソーシャルワーカー養成におけるハラスメント教育の現状と課題」日本司法福祉学会(第21回)オンライン研究集会 ポスター発表資料。

中澤未美子・徳広圭子・銭本隆行(2020)「ソーシャルワーカー養成におけるハラスメントに関する教育の検討—養成校へのアンケート調査から—」日本社会福祉学会第69回秋季大会 ポスター発表資料。